

家畜衛生だより

- 監視伝染病発生状況
- 県内の家畜疾病発生状況
- 四国で豚熱感染野生イノシシを初確認！
- 親子鷹で希望広がる酪農経営を目指す
- 第 12 回全国和牛能力共進会への挑戦

監視伝染病発生状況

○家畜伝染病発生状況（令和 4 年 4 月～令和 4 年 7 月）

※中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	ヨーネ病	鳥取県	4, 6	2	3	徳島県	5, 6	2	2
		山口県	6	1	1				

○届出伝染病発生状況（令和 4 年 4 月～令和 4 年 7 月）

※中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	牛伝染性鼻気管炎	広島県	7	1	2				
	牛伝染性リンパ腫	鳥取県	4～7	12	17	島根県	4～7	6	6
		岡山県	4～7	13	24	広島県	4～7	7	13
		山口県	4～7	16	16	徳島県	4～7	7	11
		香川県	4～7	12	16	高知県	7	1	1
		愛媛県	4, 5	5	5				
	破傷風	島根県	5～7	3	3	山口県	7	1	1
サルモネラ症	鳥取県	6, 7	3	5					
豚	サルモネラ症	島根県	4	1	4	岡山県	4	1	3
		徳島県	4, 7	2	4	高知県	4	2	6
	レプトスピラ症	徳島県	4	2	2				
	豚丹毒	島根県	4, 7	2	5	岡山県	4	1	3
		徳島県	4	1	1	香川県	7	2	9
		高知県	4	2	6	愛媛県	5	1	6
鶏	鶏伝染性気管支炎	岡山県	4	1	3	徳島県	7	1	14
	マレック病	高知県	6	1	1				
蜜蜂	アカリシダニ症	岡山県	5	1	1	広島県	4, 6	2	2
		高知県	7	1	1	愛媛県	7	1	1

県内の家畜疾病発生状況

(令和 4 年 4 月未掲載分～8 月)

【牛伝染性リンパ腫】 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	5 月	乳用牛	131	1	1	元気消失、腫瘤形成
	8 月	肉用牛	141	1	1	
中予	5 月	乳用牛	51	1	1	黒色便、水様便、削瘦、食欲不振、死亡
南予	4 月	乳用牛	111	1	1	元気消失、食欲低下、 泌乳量低下、起立困難、 骨盤腔内の腫瘤
	5 月	乳用牛	91	1	1	
	5 月	乳用牛	76	1	1	

【対策】 ○農場内の定期検査と抗体陽性牛の隔離・早期更新
○吸血昆虫対策（防虫ネットの設置、忌避剤の投与）
○牛舎周辺の除草及び消毒の徹底 ○凍結や加温処理を行った初乳の給与

【破傷風】 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	8 月	肉用牛	5	1	2	神経症状（後弓反張）

【対策】 ○術後の適切な消毒の徹底 ○畜舎消毒の徹底
○牛房内の外傷原因の除去徹底 ○ワクチン接種

【牛パストレラ（マンヘミア）症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	8 月	乳用牛	0	1	1	呼吸器症状、肺炎、発熱

【対策】 ○十分な質と量の初乳給与 ○有効薬剤の投与 ○飼養環境の改善

【牛マイコプラズマ肺炎】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	7 月	肉用牛	5	1	1	発咳、腹囲膨満

【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○異常牛の早期隔離
○寒冷期の保温対策によるストレスの低減

【参考事項】 マイコプラズマは、感染力が強く、農場内に常在する傾向があります。

【牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	5 月	乳用牛	69	1	1	急死
南予	5 月	肉用牛	8	1	1	元気消失、食欲低下、 腹壁下部の腫瘤、 腸管内にガス貯留
	6 月	乳用牛	126	1	1	

【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○飼料の改善（濃厚飼料等の多給注意）
○ワクチン接種 ○ストレスの低減

[牛大腸菌症及び牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	5月	乳用牛	76	1	1	食欲不振、泌乳量低下、大腸菌性乳房炎(凝塊を含む水様性乳汁)、死亡
[対策] ○早期発見、早期治療(有効薬剤の投与、乳房洗浄)						

[牛コクシジウム病]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	5月	肉用牛	12	1	1	粘血便
[対策] ○敷料の交換 ○抗コクシジウム剤の投与						

[肝蛭症及び脂肪壊死症(牛)]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	6月	肉用牛	153	1	1	直腸検査で硬結腫瘤を触知、血便、低体温
[対策] ○一定期間貯蔵した稲わらの給与 ○駆虫剤の投与 ○育成期の過肥注意						

[豚丹毒] 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	5月	豚	22	1	6	突然死、チアノーゼ
[対策] ○ワクチン接種 ○畜舎消毒の徹底						

[豚レンサ球菌症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	5月	豚	57~119	1	7	突然死、起立不能
[対策] ○有効薬剤の投与 ○ストレスの低減 ○畜舎の換気 ○畜舎消毒の徹底 ○ワクチン接種						

[サルモネラ症(豚)]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	7月	豚	77~120	1	6	突然死、起立不能
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○ストレスの低減						

[豚パスツレラ症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
中予	6月	豚	128~149	1	5	発咳、死亡
南予	7月	豚	77~134	2	9	突然死、起立不能
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○ストレスの低減 ○畜舎の換気 ○ワクチン接種						

[豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	7月	豚	120~134	1	6	突然死
[対策] ○生菌剤の給与 ○ストレスの低減 ○畜舎消毒の徹底 ○飼料切り替えのタイミング見直し						

[豚トウルエペレラ（アルカノバクテリウム）・ピオゲネス感染症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	7月	豚	77~120	1	6	突然死、起立不能
[対策] ○ストレスの低減 ○外傷の早期発見・治療 ○畜舎消毒の徹底						

[鶏大腸菌症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	羽数	主な症状
中予	6~8月	採卵鶏	218 ~592	1	6	衰弱（うずくまり、嗜眠）、死亡羽数の増加
南予	8月	肉用鶏	32	1	33	死亡羽数の増加
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○暑熱対策の実施 ○ストレスの低減 ○死亡鶏の早期発見による感染拡大防止						

[鶏コクシジウム病]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	羽数	主な症状
南予	7月	採卵鶏	134	1	13	死亡羽数の増加
[対策] ○ストレスの低減 ○生菌剤の投与						

[アカリндаニ症] 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	戸数	群数	主な症状
南予	7月	ニホンミツバチ	1	1	飛翔不能蜂の増加、死亡数の増加
[対策] ○巣箱の清掃や交換 ○巣板・蜂具の消毒の徹底					

四国で豚熱感染野生イノシシを初確認！

今年 3 月に中四国では初めて山口県で確認された野生イノシシの豚熱感染事例は、現在山口県で 40 事例、広島県で 5 事例、島根県で 13 事例と増加していますが、四国でも、本年 7 月 25 日に徳島県徳島市で、死亡野生イノシシでの豚熱感染が初めて確認されました。さらに 8 月以降、徳島県の東部での確認が続く中（合計 12 事例）、9 月には高知県香美市の捕獲イノシシからも豚熱感染事例の報告があるなど、本県への侵入リスクは一層高まっています。（感染事例は令和 4 年 10 月 5 日時点）



豚熱感染野生イノシシ発見地点（10月5日時点）

なお、本県では捕獲イノシシについて、昨年度は 300 頭、今年度は計画頭数 350 頭（令和 4 年 10 月 1 日時点で 122 頭実施）で豚熱及びアフリカ豚熱の検査を実施しており、現在までに感染事例は確認されていません。

豚熱の拡大には野生イノシシだけでなく、人や物の移動も関与すると言われています。このため、飼養衛生管理基準の遵守徹底により衛生管理区域や豚舎内への豚熱ウイルスの侵入防止に万全を期すとともに、異状豚を発見した場合には、直ちに最寄りの家畜保健衛生所に通報していただくようお願いします。

がんばる愛媛の畜産 親子鷹で希望広がる酪農経営を目指す

西予市的那須秀樹（52）さんは、これまで 23 年間務めた地元の農協を退職して、平成 24 年からは家業を継ぎ、現在 23 頭の搾乳牛と和牛繁殖牛 8 頭を飼養する乳肉複合経営を行っています。また子息の俊紀（26）さんは、北海道の大学を卒業し、酪農の先進地である北海道でヘルパーとして 2 年間、専門的な技術を習得した後、令和 3 年 8 月から後継者として就農しました。秀樹さんから任される作業も増え、北海道で習得した技術も活かした仕事ぶりから、今では頼れる大きな存在です。

これを機に秀樹さんは、将来スムーズな経営移譲が行えるよう、長年構想していた乳用牛牛舎の新設に着手し、令和 4 年 4 月から新たな牛舎での経営を開始することとなりました。この新しい牛舎では、フリーストールやフリーバーン導入も検討していましたが、多額の投資となることもあり、これまで自身が培った飼養管理技術を活かした行き届いた管理を目指し、対尻式の繋ぎ飼い方式（60 頭規模）を採用しました。さらに、設備類についても、国のクラスター事業である機械導入事業等を活用して、搾乳ユニット（8 台）を自動で運ぶことができるキャリロボ（4 台）、自動給餌機、粗飼料を混合するミキサー等を新たに整備しました。

今まで 1 時間 30 分程度かかっていた搾乳時間が 40 分程度と大幅に短縮され、また飼料給与は、以前の手やりから個体毎のきめ細やかな給与管理（7 回/1 日）が可能となり、残飼の大幅なムダの削減にもつながっています。新たな牛舎での飼養により、ゆとりある酪農経営を実現することができました。さらに作業時間の省力化が図られたことから、自家用はもとより地域全体の自給飼料生産拡大にも力が入り、現在、秀樹さんは東宇和コントラクター研究会会長として活躍し、また俊樹さんも会員として必要な戦力となっています。1 年後には搾乳牛 50 頭



左から那須秀樹さん、俊紀さん



新牛舎内部



搾乳ユニットとキャリロボ

規模まで増頭する計画としており、その全頭を年間において十分に給与できる自給飼料を生産しています。

親子は、搾乳牛 60 頭までの増頭を将来の目標として掲げています。現在の困難な情勢を乗り越え、飼料価格の高騰に対応できるよう自給飼料の一層の確保に努めるなど、今後も様々な取り組みに挑戦し、地域酪農の発展にも貢献していきたいと語っており、頼もしい親子鷹の希望は広がっています。



自動給餌機

がんばる愛媛の畜産 第 12 回全国和牛能力共進会への挑戦

令和 4 年 10 月 6 日（木）～10 日（月・祝）に鹿児島県霧島市牧園町及び南九州市知覧町で、第 12 回全国和牛能力共進会が開催されます。全国和牛能力共進会は、5 年に一度開催される和牛の改良成果を競う全国大会であり、本大会には 41 道府県から 439 頭が出品されます。

本県からは、第 2 区（若雌の 1）に 1 頭、第 8 区（去勢肥育牛）に 2 頭、計 3 頭を出品予定であり、愛媛県代表牛の選考を重ねてきた結果、7 月 21

日、22 日にかけて実施した最終審査会において、第 2 区には角藤幸男氏（西予市）の「ふくひめ」号、第 8 区には池田一成氏（愛南町）の「愛潔日本一」号と、関平畜産（有）（西予市）の「豊作」号の 3 頭が選ばれました。

これまでの取組成果を披露する場である本大会に向け、出品者の皆様は、大会直前まで牛の調整を続けてきました。本誌が発行される頃には、皆様の良い成果が出ていることと思います。



“ご相談、お問い合わせは、こちらへ”

愛媛県畜産課

Tel (089) 912-2575 Fax (089) 912-2574

東予家畜保健衛生所

Tel (0897) 57-9122 Fax (0897) 57-9155

東予家畜保健衛生所今治支所

Tel (0898) 22-0430 Fax (0898) 22-0438

中予家畜保健衛生所

Tel (089) 990-1333 Fax (089) 955-1234

南予家畜保健衛生所

Tel (0894) 22-0328 Fax (0894) 22-0343

南予家畜保健衛生所宇和島支所

Tel (0895) 22-1294 Fax (0895) 22-9316

家畜病性鑑定所

Tel (089) 990-1341 Fax (089) 955-1234

畜産研究センター

Tel (0894) 72-0064 Fax (0894) 72-0065

畜産研究センター養鶏研究所

Tel (0898) 66-5004 Fax (0898) 66-5093

畜産協会 BSE 検査死亡牛受付専用

携帯 Tel 080-3166-7222